

## 共通テストの特徴

共通テストでは、身につけた知識や解法をさまざまな場面で活用できるか、言い換えれば思考力や判断力を自由自在に駆使することができるかを問う傾向が強いと言えます。この点について、大学入試センターは、「深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題」を重視するとしています。

「公共・政治・経済」では、データの読み取り能力、文章・会話文の読解力などを試すために、図表、資料文、会話文などを活用した問題が中心となっています。また、一つの大問で広範な分野の事項を取り上げる傾向を見て取ることができます。

このような傾向に対処するためには、日頃から、用語の単なる暗記で満足することなく、その内容理解に徹し、関連事項を意識しながら学習することが求められます。本書は、このような傾向に立ち向かうことのできる“地力”を効率的に養うことを目的に作成されています。

## 本書の構成

本書は、共通テスト本番までの限られた時間の中で、あなたの実力を最大限引き出すために作られた一冊です。1単元4ページを基本としており、**要点整理**、**スキルアップ講座**、**基礎力チェック**の順に構成されています。また、本格的な共通テストの形式に慣れるために10回分の**実践テスト**も用意しています。

## 要点整理

共通テストに必要な重要項目を網羅し、見開き2ページにまとめています。赤シートを活用することで重要語句が覚えやすくなります。

各項目では入試出題項目を頻出順に3段階でランク付けしています。

頻度C   頻度B   頻度A

18 第1編 公民編

本文中に他の章やページに関連した項目を確認してほしい箇所には参照マーク(➡00頁)をつけています。章をまたぎ、繰り返し読むことで記憶が定着しやすくなります。

## スキルアップ講座

11 スキルアップ講座

111 効利主義・情報論・倫理学の要点を覚えよう

項目	効利主義の要点	情報論の要点	倫理学の要点
効利主義	「目的」のみが価値基準となる	「目的」が価値基準となる	「目的」が価値基準となる
情報論	「目的」が価値基準となる	「目的」が価値基準となる	「目的」が価値基準となる
倫理学	「目的」が価値基準となる	「目的」が価値基準となる	「目的」が価値基準となる

112 カントの思想をもう少しだけ深掘りしておこう

113 センによるロールズ批判にも目を向けよう

18 第1編 公民編

間違えやすい部分や、入試で使える項目、アドバイスなどを「スキルアップ講座」として補足しています。

## 基礎力チェック

3 行為の「正しさ」をめぐる考え方

31 行為の「正しさ」をめぐる考え方

32 行為の「正しさ」をめぐる考え方

33 行為の「正しさ」をめぐる考え方

18 第1編 公民編

1単元ごとに基礎力を試すことをねらいとした、基本問題を収録しています。

## 実践テスト

10 第1編 公民編

11 第2編 自然・社会・文化編

12 第3編 外国語編

13 第4編 外国語編

14 第5編 外国語編

15 第6編 外国語編

16 第7編 外国語編

17 第8編 外国語編

18 第9編 外国語編

19 第10編 外国語編

共通テストらしい「思考力・判断力・表現力」を問う実践的な問題にチャレンジできます。

## 本書の 活用法

### 基本の使い方

広範囲にわたる知識をインプットし、問題に応じて的確にアウトプットできるようにするための学習を意識しましょう。そのために、本書では60のテーマごとに重要な学習事項を厳選して整理してあります。具体的には、次のことを意識してください。

各単元の最初の2ページで重要な事項を確認します。その際、理解度を自分なりに3段階に分け、本書の適当な箇所に入記しておく、後に役立ちます。二周り目、三周り目の学習に入ったときに、とくに注意すべき事項（理解度が低い事項）が明確になっているため、効率的な学習を行うことができます。

**基礎力チェック**でどのような事項が、どのように問われるかという観点から、基本事項の習得の度合いを確認します。正確な判断ができなかった場合は、その原因を探るためにもう一度、最初の2ページに戻って理解を深めましょう。

**スキルアップ講座**で重要事項を改めて確認しましょう。共通テストの“勘所”が取り上げられています。また、もう少し“深掘り”しておくことで役に立つ事項も扱っているので、これにも注意してください。

**実戦テスト**が全部で10回用意してあります。実際に出題された問題に取り組む中で、身につけた知識を活用した思考力や判断力などを磨いてください。この作業を通じて、“分かっているつもり”の段階から“確実に理解した”段階へと歩みを進めましょう。

#### \*掲載問題について

「基礎力チェック」「実戦テスト」では、主に共通テスト、センター試験の過去問のほか、オリジナル問題も収録しています。共通テストおよびセンター試験の過去問を活用するには、試験の年度を表記しています。また、時事の変化の対応が必要な場合や、掲載上の都合などで一部改変を行っているものがあります。内容が伴う改変を行った場合には、年度の後に「-改」表記しています。例：(20●年本試-改)  
科目は学習内容に応じて「公共」「政治・経済」のほか、「倫理」「現代社会」からも採用しています。

## タイパ 勉強法

### 本番まで90日！

文字通りの明確な戦略を立てる必要があります。1か月ごとに区切って、次のようなスケジュールに従って取り組むことを勧めたいと思います。

#### 第1期 最初の1か月

「公共、政治・経済」の全体のイメージを作る時期です。そのためには、各単元の最初の2ページに集中して全体をやり切ることが必要です。その過程で、理解しにくいところがあったとしてもそれにこだわる必要はありません。ただし、その箇所をチェックを入れて自分に対して注意を促すことを忘れないでください。

#### 第2期 次の1か月

上で見た“チェック”を意識しながら、「スキルアップ講座」「基礎力チェック」「実戦テスト」に取り組めます。「基礎力チェック」の問題に取り組む中で知識の習得度を測り、必要に応じて最初の2ページに戻って欠落した知識の習得や不十分な知識の補修を行います。同様のことは「実戦テスト」についても当てはまります。こうした作業を複数回、繰り返しましょう。

#### 第3期 最後の1か月

いよいよ総仕上げの時期です。第1期、第2期での作業を通じて、自分の得意分野と不得意分野がかなり明確になっているはず。相対的に多くの時間を不得意分野に振り向け、その総点検を行って、総合力を高めましょう。



### 本番直前！！

限られた時間の中で全体を見通すことは難しいので、学習の焦点を絞る必要があります。各テーマごとに試験の頻度が3段階（旗印の個数）で示してあることに改めて注目してください。この表示のうち旗印3つと2つに絞って知識の習得度を確認するという作業を徹底的に行いましょう。

その際に「スキルアップ講座」を活用すると、より大きな効果が得られると思います。本番が迫ってくると、精神的に落ち着かなくなることは避けられませんが、そういう時こそ地道な作業が“ものをいう”と頑張ってください。

共通テストの特徴、本書の構成 ..... 2  
 本書の活用法、タイプ勉強法 ..... 4

**第1編 公共の扉** 9

**第1章 公共的な空間を作る私たち**

1 現代社会に生きる青年 ..... 10  
 2 社会的関係のなかで生きる人間 ..... 14

実戦テスト1 ..... 18

**第2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方**

3 行為の「正しさ」をめぐる考え方 ..... 24  
 4 環境や生命に関わる倫理的課題 ..... 28  
 5 現代社会を読み解く先哲の考え ①古代ギリシアと世界三大宗教 ..... 32  
 6 現代社会を読み解く先哲の考え ②中国の思想と日本の思想 ..... 36  
 7 現代社会を読み解く先哲の考え ③西洋の近現代思想 ..... 40

実戦テスト2 ..... 44

**第3章 公共的な空間における基本原理**

8 公共的な空間における協働と民主主義の意義 ..... 52  
 9 近代民主政治の成立 ..... 56  
 10 法の支配と立憲主義 ..... 60  
 11 人権保障の発展 ..... 64  
 12 世界の主な政治体制 ..... 68

実戦テスト3 ..... 72

13 日本国憲法の成立とその基本的な性格 ..... 78  
 14 基本的人権の保障 ①一般原理と平等権 ..... 82  
 15 基本的人権の保障 ②自由権 ..... 86  
 16 基本的人権の保障 ③社会権 ..... 90  
 17 基本的人権の保障 ④基本的人権を確保するための権利と公共の福祉 ..... 94  
 18 基本的人権の保障 ⑤新しい人権と外国人の法的地位 ..... 98

実戦テスト4 ..... 102

**第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち** 109

**第1章 民主政治と私たち**

19 政治・国家のあり方と政治参加 ..... 110  
 20 地方自治 ①理念と仕組み ..... 114  
 21 地方自治 ②現状と課題 ..... 118  
 22 国会の仕組みと役割 ..... 122  
 23 内閣の仕組みと役割 ..... 126  
 24 行政の民主化と行政改革 ..... 130  
 25 選挙 ①選挙制度の特徴 ..... 134  
 26 選挙 ②日本の選挙制度の現状・課題と有権者の動向 ..... 138  
 27 政党・利益集団(圧力団体)・世論の役割 ..... 142

**第2章 法の働きと私たち**

28 法と社会規範の役割 ..... 146  
 29 社会生活と法 ..... 150  
 30 司法の仕組みと国民の司法参加 ..... 154

実戦テスト5 ..... 158

**第3章 経済社会と私たち**

31 経済活動の特徴と経済体制・経済学説 ..... 166  
 32 経済主体と経済循環 ..... 170  
 33 現代の企業 ..... 174  
 34 市場の仕組み ..... 178  
 35 寡占化と市場の失敗 ..... 182  
 36 国民所得と経済成長 ..... 186  
 37 景気変動(景気循環)と物価問題 ..... 190  
 38 金融の仕組みと機能 ..... 194  
 39 財政の仕組みと役割 ..... 198  
 40 現代日本における金融・財政の動向 ..... 202

実戦テスト6 ..... 206

41 戦後日本経済の歩み ①戦後復興期～高度経済成長期 ..... 216  
 42 戦後日本経済の歩み ②石油危機以降 ..... 220

43	中小企業問題と農業問題	224
44	公害問題と消費者問題	228
45	労働問題	232
46	社会保障問題	236
	実践テスト7	240

#### 第4章 国際社会と私たち

47	国際社会の成立と国際連盟	250
48	国際連合の役割と課題	254
49	戦後国際政治の動向 ①冷戦の成立と多極化の進展	258
50	戦後国際政治の動向 ②冷戦終結と紛争・戦争	262
51	軍縮の進展と日本の外交	266
52	日本の平和主義	270
53	日本の安全保障政策の動向	274
	実践テスト8	278
54	貿易と国際収支・外国為替	286
55	戦後国際経済の動向	290
56	地域的経済統合の進展	294
57	南北問題と日本の経済協力	298
58	国際経済の現状・課題と日本経済の歴史的動向	302
59	地球環境問題と資源・エネルギー問題	306
	実践テスト9	310

### 第3編 持続可能な社会づくりの主体としての私たち—現代の諸課題に関する探究活動 319

60	課題探究活動のイメージとプロセス	320
	実践テスト10	324

さくいん	329
------	-----

## 1 現代社会に生きる青年

## 1 青年期と自己形成

## ●青年期の歴史的・文化的特質

①**青年期の長期化**▶青年期は、ヨーロッパにおける産業革命を機に、高度な知識や技能が要請されるようになったことで社会的に認知されるようになった。その後、科学技術の発達や産業化のさらなる進展とともに長期化する傾向を見せた。

②**青年期の社会的・文化的相対性**▶青年期と呼ばれる独自の時期がどの社会や文化にも同じように見られるわけではない。文化人類学者のミードは、サモア島の若者には西洋の文明社会における若者が経験するような不安や心理的葛藤は見られないという調査報告を行った。

## ●青年期の特徴

①**第二の誕生**▶ルソーが『エミール』のなかで用いた語。「われわれは、いわば二回生まれる。一回目はこの世に存在するために、二回目は生きるために。つまり最初は人間として、つぎには男性・女性として生まれる。…これがわたしのいう**第二の誕生**である。」

②**マージナル・マン(境界人・周辺人)**▶レヴィンが青年の特徴を表すために用いた語。青年は、子ども集団と大人集団のいずれにも完全には属していないという意味。

③**心理・社会的モラトリアム**▶エリクソンが用いた語。青年期は、大人として責任や義務を果たすことを猶予されている時期であるという意味。

④**心理的離乳**▶ホリングワースが用いた語。青年期には、親などに対する依存から脱し自立に向けて踏み出すようになるということの意味する。

⑤**第二次性徴**▶声変わりなど身体的な変化が見られるようになる。

⑥**第二反抗期**▶親・教師・社会通念などに対して批判的な目を向けるようになる。

⑦**疾風怒濤の時期**▶ホールが用いた語。抑えがたい激情にかられ、不安と動揺を経験するさまを表す。

## ●青年期の発達課題

①**エリクソン**▶人生を8つの段階(乳児期～老年)に分け(ライフサイクル)、それぞれの段階における発達課題を示した。そして、そのうちの青年期の最も重要な発達課題を**アイデンティティ(自我同一性)の確立**であるとした。アイデンティティとは、自己が属する集団や社会における「自分らしさ」についての認識が深まり、安定した自己像を保持することを意味する(安定した自己像をもてず心理的な危機に陥ることを**アイデンティティの拡散**と呼んだ)。

②**ハヴィガースト**▶青年期の発達課題として、両親などから精神的に独立すること、職業選択の準備をすること、社会人としての倫理観を確立していくことなどを挙げた。

●**若者文化(ユースカルチャー)** 若者文化は、社会で一般的にみられる文化に対し、その社会に属する特定の集団を担い手とする**下位文化(サブカルチャー)**という側面や、社会の支配的な文化への批判を含んだ**対抗文化(カウンターカルチャー)**という側面をもつ。

## 2 適応と欲求

●**欲求の種類** 欲求は、**一次的欲求**と**二次的欲求**に分類される。一次的欲求は、飲食・休息・睡眠など生理的基盤をもつ欲求、二次的欲求は集団帰属・名誉など社会生活を営む場面で起こる欲求である。

## ●葛藤(コンフリクト)の種類

「接近—接近」型	(例)一人で映画を見に行きたいし、友人と会って一緒に遊びもしたい
「回避—回避」型	(例)宿題をやるのは嫌だが、それをやらずに先生に叱られるのも嫌だ
「接近—回避」型	(例)一人暮らしをしたいが、家事をするのは面倒だ

## ●欲求不満(フラストレーション)が生じたときの対応・反応

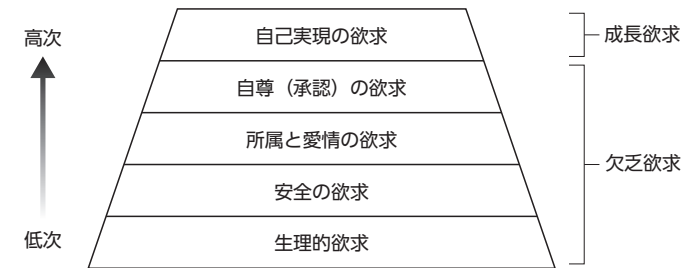
①**合理的解決**▶欲求を抑制したり、調整したりしながら目標達成を図る。

②**近道反応**▶衝動的な攻撃などにより緊張を解消する。

③**防衛機制**▶無意識のうちに心の安定を保とうとする。

## ●マズローの欲求階層説

**マズロー**は人間の欲求を五つの階層に分け、低次の欲求がある程度充足されると、より高次の欲求の充足へと向かうとした。



## 3 若者の自己実現をめぐる現状と課題

●**フリーターやニートの増加** フリーターとはアルバイト・パートとして就業しているか、そうした就業を希望する若者。ニートとは就学も就職もせず、職業訓練も受けておらず働く意志のない者。

●**インターンシップ** 学生が一定期間、企業などで研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行うこと。

●**キャリアデザイン** 自分のライフサイクルを踏まえ、家庭・学校・地域社会などにおける自分の生き方やあり方を考えながら人生設計を行うこと。

●**シチズンシップの形成** ボランティア活動やソーシャルビジネス(貧困・環境・まちづくりなど社会問題の解決を目的としたビジネスのこと)に関わるなど、自ら社会に参画することが求められる。



## スキルアップ講座

### 【1】パーソナリティや人間関係のあり方に関わる語に目配りを利かせよう

- ① **パーソナリティの三要素** ▶ パーソナリティには、能力(知識・技能)、気質(感情的側面)、性格(意志的側面)の三要素がある。
- ② **パーソナリティの類型** ▶ パーソナリティは、生物学的要因や心理的要因による特徴に基づいて、いくつかの類型に分けて考えられる。例えば、**ユング**は、主たる関心が自分のうちに向かう「**内向**」と、主たる関心が自分の外にある「**外向**」に分類した。また、**クレッチマー**は、「**体型と気質**」を基準に分類した。
- ③ **ヤマアラシのジレンマ** ▶ 人間は、他者と対人関係をつくろうとする際に、相手を傷つけることを恐れるあまり、親密な関係を結べないことがある。これを**ヤマアラシのジレンマ**と呼ぶ。この語はドイツの哲学者ショーペンハウアーに由来するもので、トゲのような剛毛をもつヤマアラシの一群が冷たい冬の日に凍えることを防ぐためにぴったりとくっつきあおうとするが、互いにトゲの痛さを感じて別れることを繰り返すという状況にたとえたものである。
- ④ **役割実験** ▶ **エリクソン**は、青年がアイデンティティを確立するためには、様々な対人関係を経験する中で多様な役割を引き受け演じることにより、自己や他者への理解を深めることができると考え、これを**役割実験**と呼んだ。

### 【2】防衛機制の類型を押さえよう

抑圧	不快な記憶などが意識の表面に上ってこないように抑えつける
合理化	自分の失敗などを、もっともらしい理由をつけて正当化する
同一視	他人の特性(言動・服装など)を自分に取り入れて満足する
投射	自分のいやなところや否定的な欲求を、他人に転嫁する
反動形成	実際とは逆の態度や行動の型を誇張する
逃避	困難な問題に直面することを避け、空想の世界などに逃げ込む
退行	子どもっぽい態度をとるなど、発達段階を逆戻りする
代償	別の欲求を満たすことで、満足を得ようとする
昇華	満たされない欲求を、社会的に価値の高い活動に置き換える

- ▶ 合理的解決や近道反応と区別しよう。
- ▶ 各類型の名称を暗記するのではなく、それぞれの特徴を押さえよう。

## 1 現代社会に生きる青年

## 基礎力チェック

- 1 ルソーの著書『エミール』において、子どもから大人へと移行する青年の時期についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2022年追試)
- ① この時期を、大人としての責任や義務が猶予され、自由に様々なことを試みながら自立の準備をする「心理・社会的なモラトリアム」の期間と捉えた。
- ② この時期にある人を、子ども集団にも大人集団にも所属しながらどちらにも安定した帰属意識をもてない「境界人(マージナル・マン)」と呼んだ。
- ③ この時期を、存在するために生まれた一回目の誕生に対して、生きるために生まれる「第二の誕生」と捉えた。
- ④ この時期にみられる、親や大人の保護や監督から離れて心理的に独立する過程を「心理的離乳」と呼んだ。

- 2 防衛機制の例として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2022年本試)

- ① 頑固なためにアルバイト先の先輩との関係がうまくいかない者が、先輩の頑固さを指摘し、相手のせいにしてしまう。
- ② 失恋による満たされない気持ちを抱えた者が、楽曲の制作に精力を傾けることで、人気アーティストとして活躍するようになる。
- ③ 勉強方法が原因で思うように成績が伸びない者が、先生に相談してアドバイスをもらい、勉強のやり方を変える。
- ④ 友人の度重なる失礼な態度に腹を立てている者が、その友人と話すときに、気持ちとは裏腹に、思わず過度に親切な対応をしてしまう。

- 3 次の記述A～Eを、マズローが提唱した階層的な欲求の構造に従って低次から高次へと並べたとき、最も低次に位置するものと最も高次に位置するものの組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。(2020年本試-改)

- A 飢えや渇き、睡眠不足などの生理的な欠乏状態を解消したいという欲求
- B 自信をもったり、他者から認められたりしたいという欲求
- C 特定の集団に所属し、その一員として愛情に満ちた関係や所属意識を得たいという欲求
- D 恐怖や危険を避けて、安全に暮らしていきたいという欲求
- E 自分自身のもつ能力や可能性を追求し、本来の自分として成長したいという欲求

- ① AとB ② AとE ③ BとC ④ BとD

- 1 ③ ルソーは青年期の特徴を「**第二の誕生**」という言葉で表した。①青年期を「**心理・社会的モラトリアム**」の時期と捉えたのは**エリクソン**。②青年期にある人を「**境界人(マージナル・マン)**」と捉えたのは**レヴィン**。④青年期にみられる精神的自立を「**心理的離乳**」と捉えたのは**ホリングワース**。

- 2 ③ 合理的解決の例(合理的解決は防衛機制ではない)。①**投射**の例。自分の頑固さを他人(先輩)のせいにしてしている。②**昇華**の例。失恋の痛手を「楽曲の制作」という社会的に価値の高い活動に置き換えている。④**反動形成**の例。腹を立てているのにそれとは逆の態度を示している。

- 3 ② **マズロー**は欲求を5つの階層に分けたが、それを低次から高次へと並べると、**生理的欲求**→**安全の欲求**→**所属と愛情(愛)の欲求**→**自尊(承認)の欲求**→**自己実現の欲求**となる。A～Eをこれに当てはめるとA→D→C→B→Eとなる。

## 2 社会的関係のなかで生きる人間

## 1 公共空間の形成

## ●社会的存在としての人間

- ①**公共空間とは**▶公共空間は共同体と対比して捉えられることがある。共同体が伝統的な価値を共有する閉じた集団であるのに対して、公共空間は人々の自由な活動によって成立することを特徴とし、その意味で開かれた空間である。
- ②**個人の尊厳**▶公共空間においては、人種・性別・年齢・障害の有無などにかかわらず、すべての人が相互に個人として尊重される必要がある。そのためには、**ダイバーシティ**(多様性)の承認と**ソーシャルインクルージョン**(社会的包摂)の姿勢が不可欠となる。

## ●人格と個性の尊重

- ①**カント**▶人間は自己の内なる**実践理性**が命じる**道徳法則**(いついかなる時にも誰もが従うべき行為準則)に従って自律的に行為すべきであり、そうした自律的自由の主体(**人格**)が互いに尊重し合う共同社会を**目的の国**(**目的の王国**)と呼んで理想とした。また、自己や他者の人格のうちにある**人間性を目的として扱い、単に手段としてのみ扱うべきではない**とした。
- ②**ミル**▶個人の行為を制約できるのは、その行為が他者に危害を及ぼすときだけであるという原則(**他者危害の原則**)を説いた。ミルによれば、いかに愚かに見える行為であっても、他者に危害を加えていない限り、それに干渉することはできないということになる。

## ●公共空間に関する考え方

- ①**アレント**▶人間の行為を、生活に必要なものを生産して生命を維持する「**労働**」、生活用具や芸術作品を制作する「**仕事**」、言葉を介して人間同士の意思疎通がなされる「**活動**」に分け、「**活動**」によってこそ**公共的な空間が生み出されると**説いた。近代以降においては「労働」の領域が大きくなり、人々の公共性が失われていったと分析した。
- ②**ハーバーマス**▶生活世界の植民地化からの脱却のためには、**対話的理性**(**コミュニケーション的理性**)を重視すべきであると説いた。

- 生活世界の植民地化 政治制度や経済制度といったシステムが人間の生活世界(日常生活)を支配している結果、本来あるべき市民的公共性が浸食されている状況。
- 対話的理性(コミュニケーション的理性) 人々が互いを尊重しあいながら、開かれたかたちで相互に批判を行い、ことばを尽くして互いの理解を深めて合意を形成しようとするときに働く理性。効率的な成果の達成や支配秩序(システム合理性)を追求する理性(道具的理性)とは異なる。

## 2 日本における伝統・文化と私たち

## ●古代日本における宗教観・道徳観

- ①**アニミズム**▶古代の日本では、雷・稲妻などの自然現象、巨木・巨石などの自然物など人間の力を超えた不可思議な事象はすべて、畏怖の対象であった。
- ②**八百万神**▶森羅万象に対して畏怖の念を抱いた古代の人々にとって、神とは**八百万神**(きわめて多くの神々)であった。
- ③**罪と穢れ**▶農耕生活に必要な共同の秩序を破壊することや、病気・自然災害など日常の平安を脅かすことは、**罪・穢れ**として忌み嫌われた。罪・穢れは外部から付着するものと考えられ、それを取り除くために**禊**いや**禊**が行われた。
- ④**清き明き心(清明心)**▶古代の人々は、神に対してうそ偽りがなく、つくろい飾るところのない心(私利私欲を捨て共同体と和合する純粋な心)を重んじた。

『古事記』の神話には、アマテラスを訪ねて高天原(神々の世界)にきた弟スサノヲが自らの清く明き心を証明する場面がある。また、『万葉集』の和歌にも、清らかで澄み切った美しさを賛美する表現が数多くみられる。さらに、その後時代が下るにつれ「正直」、「誠」などの心のあり方が説かれたが、清き明き心はそれらの源をなしているといわれる。

## ●日本の伝統・文化についての考え方・捉え方

- ①『古事記』にみられる世界観▶『古事記』には、この世界は唯一絶対の創造神によってつくられたものでも、何かあるものから生まれてきたものではなく、世界それ自身のうちにある「いきおい」「働き」によって「**おのずから成りゆく**」ものであるという考えが示されている。
- ②**柳田国男**▶村落共同体に生きる**常民**(一般庶民)の日常生活に息づく民間伝承(言い伝え、祭祀、習俗、信仰など)のうちに日本文化の基層を見いだした。また、人の魂は死後の一定期間、村落共同体の周辺にとどまり、子孫を見守る祖霊となっていくとした(**祖霊信仰**)。
- ③**折口信夫**▶日本の神の原型は常世国(豊饒と光明の世界)から定期的に村落を訪れ去ってゆく「**まれびと**(客人)」であるとし、「まれびと」と人々との交わりを通して和歌や物語が生みだされたと言った。
- ④**ルース・ベネディクト**▶日本文化を「**恥の文化**」、西洋文化を「**罪の文化**」と特徴づけた。前者は、日本人の行動様式の根底には他人や世間の目を気にする恥の意識があるということに着目したもの、後者は西洋人の行動様式の根底には内面的な罪の意識があるということに着目したものである。
- ⑤**ハレとケ**▶日本では、伝統的に、祭りなど特別な改まった場(**ハレ**)とふだんの生活(**ケ**)とを区別し、それに応じて服装や食事などに変化をもたせてきた。
- ⑥**日本文化の重層性**▶**和辻哲郎**によれば、日本人は、日本文化の土台の上に、仏教や儒教、西文明などの外来の思想・文化を受け入れつつ豊かな文化を形成してきた。彼は、こうした特徴を日本文化の重層性と呼んだ。



## スキルアップ講座

### 【1】「人間とは何か」という問いへの答えはバラエティに富んでいる

- ①古代ギリシア神話▶人間は、不死である神々と対比されて、死すべき者であるとされ、その有限なあり方が強調された。
- ②アリストテレス▶人間を「ポリスの動物」と定義し、共同体としてのポリスのなかでのみ生きることができるとした。
- ③『旧約聖書』▶人間は、神によって、神の姿に似せて創造されたとされている。
- ④パスカル▶人間は自然界における葦のように弱く悲惨な存在であるが、思考することができるという点で偉大な存在であるとし、人間を「考える葦」と呼んだ。
- ⑤和辻哲郎▶人間とは社会から切り離された単なる個人でも、社会に埋没した存在でもなく、人と人との関係において生きる「間柄的存在」としてあるとした。

### 【2】日本の伝統・文化を広い視点から捉えよう

#### ①日本人の伝統的な美意識▶

- i) わびせんりのきゆう 千利休は、世俗世界の飾りや奢りを捨てた閑寂な境地(わび)を重んじ、和敬清寂の精神に基づくわび茶(侘び茶)を完成させた。
  - ii) さびまつおぼし 松尾芭蕉は、俳諧において、移ろいゆくものをいとおしみ、そこに安らぎを見いだす境地(さび)を重視した。
  - iii) 幽玄 能を大成した世阿弥は、姿かたちとしてはみえない余情・気配(幽玄)を理想の美であるとした。
- ②柳宗悦の「用の美」▶民衆の手仕事による日常雑器などを民芸と呼び、そこに現れた芸術性に注目した。
- ③和辻哲郎の風土論▶和辻哲郎は、自然の特性や人間の生活文化のあり方などを基準として、世界の風土をモンスーン型(日本など)、砂漠型(中東・アフリカ)、牧場型(ヨーロッパ)の三つに類型化した。

モンスーン型	気まぐれな自然のもとで、受容的・忍従的な態度が育まれる。
砂漠型	人を寄せつけない厳しい自然のもとで、対抗的・戦闘的な態度が育まれる。
牧場型	穏やかな自然のもとで、自発的・合理的な態度が育まれる。

#### ④年中行事と通過儀礼(イニシエーション)▶

	特徴	具体例
年中行事	毎年特定の時期に行われる行事	正月、節分、端午の節句、お盆など
通過儀礼	人生の節目で行われる儀式	お宮参り、七五三、成人式など

## 2 社会的関係のなかで生きる人間

## 基礎力チェック

- 1 人間の尊厳についての考え方や思想に関する次の記述A・イと、それぞれに關係の深い人物A～Cとの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。(2019年本試)
- A 人間は「目的」として扱われなければならない、「手段」としてのみ扱ってはならないと述べた。
- イ 個人の自由は、他者に危害を加えない限り、最大限尊重されるべきであると唱えた。
- A カント  
B アーレント  
C J.S. ミル
- ① A-A イ-B      ② A-A イ-C  
③ A-B イ-A      ④ A-B イ-C  
⑤ A-C イ-A      ⑥ A-C イ-B

- 2 古代の日本人が重んじたあり方についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2022年本試)
- ① 自然との調和を重んじた古代の人々は、自然の恵みを受けて共同体が繁栄することを理想とし、自然の中に神が存在することを認めなかった。
- ② 自然との調和を重んじた古代の人々は、自然の威力に逆らわないことを理想とし、災厄が生じたときには身を慎んで、一切の祭祀を行わなかった。
- ③ 純粋な心を重んじた古代の人々は、人間が生まれながらに持っている罪を禊によって祓い清め、神と一体になることを目指した。
- ④ 純粋な心を重んじた古代の人々は、偽りのない心で神に向き合うことを大切にし、祭祀を妨げて共同体の安穩を脅かす行為を罪であると考えた。

1 ②  
A: カントと關係が深い記述。カントは、人間は自己も他者も「目的」として扱われなければならない、単に手段としてのみ扱ってはならないと説いた。イ: ミルと關係が深い記述。ミルが説いた「他者危害の原則」を想定している。

2 ④  
古代の日本人は、私心のない透明な心(清明心)で神に向き合うことを重んじた。また、祭祀を妨げるなど共同体の秩序を乱す行為は罪であると考えられた。  
①不適当。自然の威力など畏怖の念を抱かせられるものはすべて神として崇められた。②不適当。災厄が生じたときには罪や穢れを取り除く儀式(祓え)を行った。③不適当。罪や穢れは「生まれながら」にもつものではなく、外部から附着するものと考えられた。また、神は一体となる対象ではなく畏怖の対象。